

みずほCustomer Desk Report 2020/06/01 号 (As of 2020/05/29)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】		公示仲値		107.53	
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	107.65	1.1078	119.22	1.2317	0.6633
SYD-NY High	107.89	1.1145	119.90	1.2394	0.6683
SYD-NY Low	107.06	1.1070	118.89	1.2291	0.6610
NY 5:00 PM	107.86	1.1110	119.79	1.2347	0.6674
NY DOW	25,383.11	-17.53	日本2年債	-0.170	0.00bp
NASDAQ	9,489.87	120.88	日本10年債	0.001	0.05bp
S&P	3,044.31	14.58	米国2年債	0.16	▲0.98bp
日経平均	21,877.89	▲38.42	米国5年債	0.30	▲3.64bp
TOPIX	1,563.67	▲13.67	米国10年債	0.65	▲4.39bp
シカゴ日経先物	21,955.00	35.00	独10年債	-0.4495	▲2.95bp
ロンドンFT	6,076.60	-142.19	英10年債	0.1830	▲2.70bp
DAX	11,586.85	▲194.28	豪10年債	0.8920	0.60bp
ハンセン指数	22,961.47	▲171.29	USDJPY 1M Vol	5.35	0.16%
上海総合	2,852.35	6.13	USDJPY 3M Vol	5.88	0.08%
NY金	1,751.70	23.40	USDJPY 6M Vol	6.61	0.06%
WTI	35.49	1.78	USDJPY 1M 25RR	-1.30	Yen Call Over
CRB指数	132.24	2.48	EURJPY 3M Vol	7.50	▲0.09%
ドルインデックス	98.34	▲0.04	EURJPY 6M Vol	8.14	▲0.04%

東京	東京時間のドル円は107.65レベルでオープン。海外時間に控えているトランプ米大統領による対中政策についての会見を前にドル売りが優勢となり、終日を通してドル円は下落。107.20レベルで海外時間へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、107.20レベルでオープンし、底堅い値動き。欧州株や米株先物市場は下げ渋り、リスクオフの買いが一息後退し、107.20を挟んで狭いレンジで推移した。107.15レベルでNYに渡った。ロンドンでは、1.2344でオープン。アジア時間の終盤からドルが売られる流れから、早朝は上昇基調を維持したが、1.2358まで上値を伸ばすと、対ドルや対ユーロのポンド売りが優勢となり、1.2292まで下落。しかし、その後、ユーロポンドが0.9053と、3か月ぶりの高値を更新すると、ユーロ売り・ポンド買いが優勢となり、ポンドドルは1.2367まで戻す。結局1.2366レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	トランプ大統領の中国に関する会見を控え、海外市場のドル円は警戒感から円買いが強まり、また、月末のリバンスでユーロ買いがでるとの思惑もあり、107.06まで下落し107.15レベルでNYオープン。朝方は米4月個人所得が失業保険や経済対策の現金給付を背景に予想を大幅に上回り、ややドル買いが強まる。その後はロンドンフィックスでユーロ買いがでるとの思惑はあるものの、トランプ大統領の会見を控えた調整の動きに107.60まで戻す。5月シカゴ大学消費者景況感指数(確報値)が予想を下回ったものの、ドル円の反応は限定的となる。一旦107.47まで下押しする局面もあったが、ロンドンフィックスを通過するとユーロ売りが強まり、パウエル議長の講演で、「最近の行動で越えてはいけな一線を何度も越えた」「非金融企業向けの貸付数日以内に供与開始へ」などの発言が伝わるがドル円の反応は限定的となる一方、円売りが徐々に強まり107.81まで戻す。午後は2時から始まるトランプ大統領の会見を前に、中国金融セクターへの制裁を検討との関係筋の話が伝わり、軟調な株式市場が下げ幅を広げるが、トランプ大統領の会見ですでに報道されていた香港の優遇措置撤回や、中国当局者へのビザ発給を拒否する意向などが表明され、世界保健機関(WHO)への支援の打ち切りも表明されたものの、直ちに関係が急激に悪化するような内容でなかったことから、株式市場が下げ幅を縮小する展開に円が売られ、107.89まで戻し、107.86レベルでクロスした。一方、ユーロドルは月末のリバンスの思惑に海外市場で1.1142まで戻し、1.1136レベルでNYオープン。朝方は1.1145まで上伸するが、調整から1.1102まで反落。ロンドンフィックスを前に1.1133まで戻すが、ロンドンフィックスを通過するとユーロ売りが再び持ち込まれ、1.1081まで反落する。終盤に掛けてはユーロ円の買いに下値をサポートされ、1.1110レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

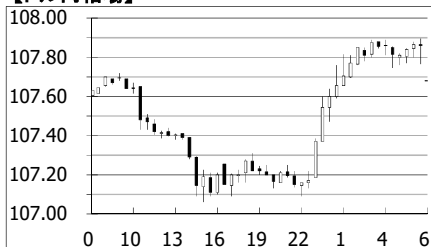
担当: 田中・松本 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

【昨日の指標等】

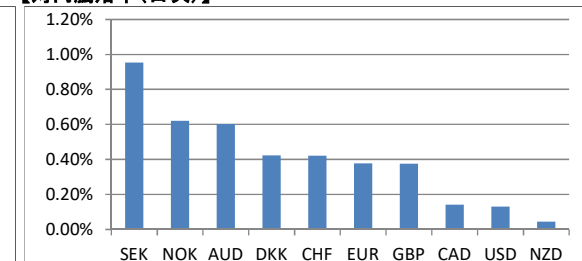
Date	Time	Event	結果	予想
5月29日	18:00	欧 CPI(前月比/前年比)・速報	5月 -0.1%/0.1%	-0.1%/0.1%
	21:30	米 卸売在庫(前月比)・速報	4月 0.4%	-0.7%
	21:30	米 個人所得/個人支出	4月 10.5%/-13.6%	-5.9%/-12.8%
	21:30	米 PCE(フルタイム前月比/前年比)	4月 -0.5%/0.5%	-0.6%/0.5%
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・確報	5月 72.3	74
5月31日	10:00	中 製造業PMI/非製造業PMI	5月 50.6/53.6	51.1/53.5

Date	Time	Event	予想	前回
6月1日	16:55	独 マークait製造業PMI・確報	5月 36.8	36.8
	22:45	米 マークait製造業PMI・確報	5月 40	39.8
	23:00	米 ISM製造業景況指数	5月 43.7	41.5

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】「歪み」の行き着く先は

主要国では新型コロナウイルス拡大が一服、外出規制を緩和し、再拡大を防ぎながら経済を正常化させる「ウイズ・コロナ」のステージへと進んだ。開放感に樂觀的な見方が醸成されやすい状況にはあるものの、皮肉なことに正常化が進めば進むほど、乖離や格差、対立の先鋭化といったものが浮き彫りになってきている。乖離と言えば、例えば、中銀の緩和策により流動性が供給され資産価格が安定、持ち直しが著しい金融市場と、まだ回復の緒に着いたばかりの実体経済がその一つ。また格差の代表例は新型コロナウイルスの犠牲者が多く、また失業者も多い貧困層と、株価回復で一安心の富裕層。そして対立と言えば、戦後外交を進める中国と、大統領選挙を控える米国。現在米国で起きている黒人暴行死のデモも対立の一例であろう。

このような「歪み」のような現象が随所で顕著化・顕在化しており、これに伴い個人から国家まで内向きになり協調が困難になっている。今月開催予定だったG7が延期の見込みとなったことはその象徴的な出来事であろう。このような協調が困難な状況下では各国の景気回復も自国優先となり、内需が強い中国は優位である一方、外需依存の日欧の景気回復は緩慢となるが予想され、ここでも格差が見られそう。

こうした「歪み」の中で一番気がかりなのは、やはり米中関係。トランプ大統領はこれまで同様、ビーンボールを投げて高めの落着きどころに持っていく手法を継続し、株価を下げるような無茶はしないだろうと樂觀的な見方が目立つ。この週末に発表した香港への優遇措置廃止やWHOとの関係断絶は、やはり決定的な対立は回避するらしいとの見方を後押しするものとなった。が、果たしてこのような樂觀論で良いのだろうか。

なにがなんでもトランプ大統領を再選させたくない中国は更なる揺さぶりをかけてくるはず。一方、支持率がバイデン候補に後れをとるトランプ大統領はなにがなんでも得点を稼ぐ必要がある。悪いことは重なり黒人との関係は修繕が不可能な状況にある。得点を稼ぐためには失業者を何とかすることであり、その失業者に必要なのは雇用であり株価ではない。雇用を回復するには工場を自国に戻す等が必要だが、それには時間がかかる。となると、雇用を奪ったのは自分ではなく中国だとの主張を一層強め、強硬姿勢に出ることは容易に想像できる。米中対立の先鋭化は避けられないのではないかと。さてこのような中、本来は通貨毎の乖離や格差が反映するのが為替相場ではあるが、先行きの見通しが難しい。中国や米国の景気回復は日欧より早くなるであろうから、USDやCHYが強くなりJPYやEURが弱くなるかというところでもない。ましてや外需が期待できず国を跨いだモノの動きが限られ、カネの動きも鈍くなることは為替相場への影響も限定的となること。直投が進む環境にもない。為替相場は決定的なカリストが見出しにくい、流動性相場と「歪み」を背景としたリスクオフの綱引きとなる。ドル円は下値リスクを抱えた状況が続く。(田中)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	浅見	大谷	谷鋪
ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
7	13